

7. こどもキッチン

記録：山田美緒

場 所：名古屋市中区社会福祉協議会 3階（名古屋市中区上前津2丁目12番23号）
対 象：誰でも
参加費：子ども100円、大人100円
代 表：竹内ひろえさん（理事長）
主 催：名古屋親子センター（NPO）

参加日時：2017年2月6日（月）16:00～17:30（ボランティア15:30～18:00）
参加人数：子ども17人、大人7人、スタッフ4人
献 立：冬野菜カレー、カブの浅漬け、野菜スティック、いちごソースのヨーグルト
参加者：山田美緒

☆子ども食堂にせず、子どもキッチンにしたのは子どもに生きる力をつけて欲しいと思ったから。親がいない時でも自分たちで料理が出来るようになってもらいたいという願いがある。（コンビニやお菓子で済ませるのではなく）貧困はもちろんだが、一番は孤食をしている子たちに来てほしい。

◎きっかけ

元々、中区に親子センターがあり、子どもの貧困と孤食が問題となっていた。そこでその子たちに対応したいと思い、始めた。

◎場所

社会福祉協議会。無料で貸してもらっている。

◎資金

中村区NPO助成金をもらっているが、少ない。

◎食材、メニュー

親子センターや家庭菜園を行っている方に余った野菜を貰ったり、スタッフがもってきたりしている。（野菜は全てもらったもの）
メニューは調理師である、えりさんが考えている。

◎宣伝

小学校でチラシを配ったり、区役所を通してケースワーカーの方に配ってもらったりしている。

◎課題、悩み

来てほしい人にきてもらえない。その人たちにどうやって届けていくのが課題。また、

続けていくためのお金の問題もある。

◎感想

料理から片づけまで、子どもが行っていた。子どもは包丁を使って材料を切ったり、火を使って炒めたりしていて、楽しそうだった。はじめて包丁を使う子もいて、お家でなかなか料理を教える時間がない親にとって、助かるだろうなと思った。始めたころより、子ども達が回数を重ねるたびに、上手になっているそう（切り方など）。食べるだけでなく、自分たちで作ることにより余計おいしく感じるだろうと思う。こういった形の子ども食堂が増えてほしい。お腹を満たすだけでなく、生きる力をつけて欲しいという言葉に共感した。

◎写真

